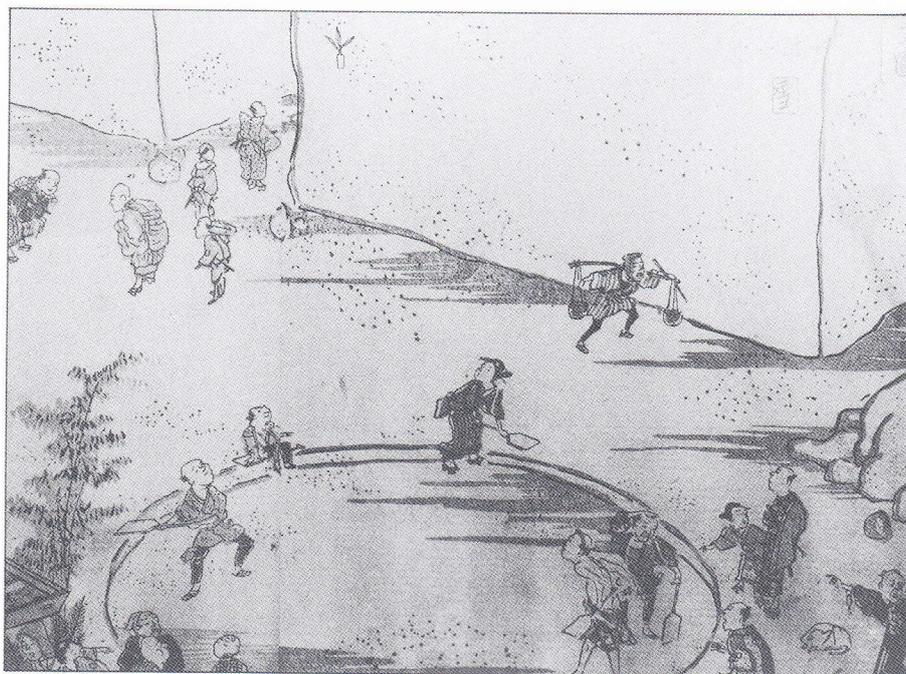


第9章

娯楽・遊戯用具



■雪中の羽根つき 「北越雪譜」より

イ 娯楽用具

娯楽と遊戯をはっきり分けることは難しいが、この娯楽用具の項では、大人たちの楽しみ、または、大人の介在する事柄についての用具を主として取上げた。

遊びが生活そのものであるような子供たちにとっても、正月の遊びが特別に楽しいものとして待ちこがれたのは、大人たちもその間は安楽に過ごそうと心がけていたので、そこに子供たちの安心感があつたからである。つまり、正月の間は遊楽が家族平等に公認されたものになってい

(ナガシゴト用具)



クワガラ 9-イ-1
全長122.5cm 1,535g
鉄・ブナ(柄) 鍍



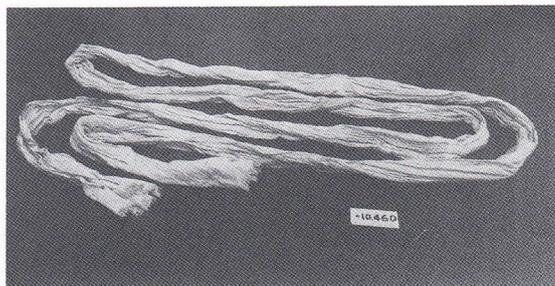
ジュズ 9-イ-4
全長29.5cm 5g(左) 全長41.5cm 7g(右)
木・陶磁器・布 寺参り用数珠



ジョウバイシ 9-イ-2
59×40cm 高さ15.5cm
自然石 藁仕事の藁叩き台



オウケ 9-イ-3
口径22cm 高さ19.2cm
朴 績んだ芋を入れる桶



オビ 9-イ-5
全長394cm 幅34cm 140g
木綿 負ぶい紐

ナガシゴト

流し事は、一つの仕事をやり終えた時、その仲間が寄合って飲食を共に楽しむ、共同の慰労会ともいうべきものであつた。時期はおおよそ晩秋のころで、農作業が一応片付いたところを見計らってするのが一般的で、その点では、いまの忘年会も兼ねていたともいえる。

最も盛んだったのは若い衆たちのもので、どこか宿の家を決めると、御馳走の材料を持寄り、すべて手作りの料理で宴会を行う。大抵は3~4日の泊り込みであつた。この流し事を鍍柄流し・ジョウバイシ流しなどといったが、これは畑仕事や藁仕事の慰労の意味があつた。

たからであつた。毎日、忙しく仕事に追われる大人たちにも、「せめて正月くらいは…」という気持があり、農家であれば土の見えない雪季は農閑期として、「たまには楽しみも…」とも思つた。しかし、かつての暮らしでは、それは限られた人たちのものであつた。

ここにある碁・将棋もそうだが、楽器などは特別の人たちに限られていた。老人は講談本を誰かに読ませて聞いたが、蓄音器はその点で大いにみんなを楽しませた。若い衆たちは、コックリさんくらいで楽しんでた。

この若い衆の流し事をオウケ流しともいったが、この意味は不明ながら、昔、越後縮を織り、芋績みに精を出した若い女衆たちの流し事であつた芋桶流しに由来しているようだ。さらに、お寺参りの婆さんたちは数珠流しをしたし、毎日子供を帯で負わされている子守りつ娘たちもオビ流しといって流し事の真似事をした。後述する子供たちによる天神講も大抵この時期に行なつたから、それが彼等なりの流し事だったのだと思う。さて、一家の主人たちのものが無いが、実はクンチ・秋ごとなどの行事があつて、これがむしろ流し事の起源であつた。

ハネツケエシ

ハネツケエシは、正月の15日、雪上で行う羽根つきである。とはいっても、羽根はウツギ（タニウツギ）の幹を短く切ったものに山鳥の羽根を挿して自製したもので、羽子板は雪掘り用具のコシキを使って行う。

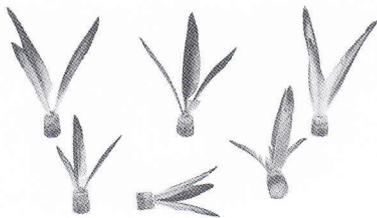
老若男女が集まり、踏み固めた雪の上で行うが、羽根を落とすとみんなで雪を掬ってかける。豪快ながら単純な遊びだが、昔はこの日にこれをしないと、夏、腰が痛むなどともいい、ムラ中の人が集まって行なった。これは、ある種の神事的な遊戯であったと思われる。鈴木牧之は『北越雪譜』にこの行事を挿絵入りで紹介している。

花見

4月3日は女の節句だが、このころになると子供たちは、各家で作ってもらった御馳走を重箱に詰め、連れ立って花見に出かけた。花見と言っても、桜が咲くにはまだ間があるが、川原や土手の雪が消えて地面のあらわれた所を見つけて延を敷き、楽しく会食して遊ぶのである。待兼ねた春の息吹を満喫する子供の行事だ。

大人たちもこの日、女衆が連れ立って、山へマンサクの花を見に行く花見があったが、男衆の場合は専ら桜の花見で、それも飲食が主であった。そんな時に用いたのが写真の野遊び用のハナテシヨ（経木製小皿）である。

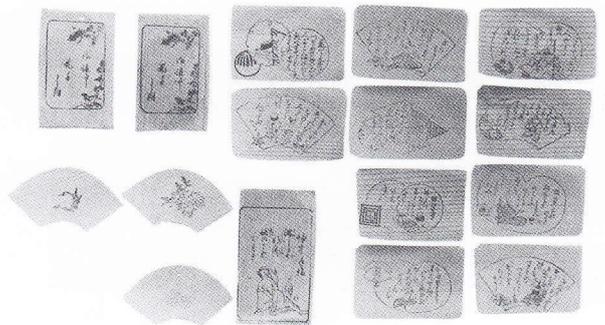
〔屋外娯楽用具〕



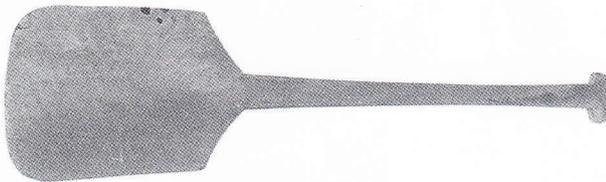
ハネ 9-1-6
全長23cm 8g
タニウツギ・水鳥の羽根
羽根つき用羽根



ハネ 9-1-13
全長17cm 18g
タニウツギ・山鳥の羽根
羽根つき用羽根



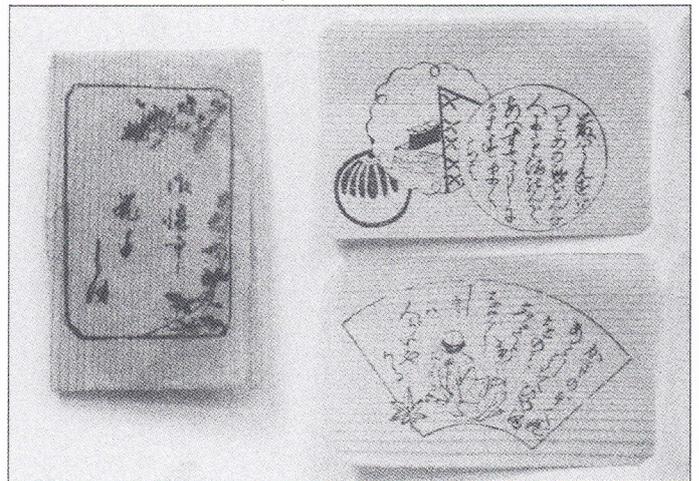
ハナテシヨ 9-1-16
11.3×7cm
経木 野外宴食用経木皿(懐中手塩皿)



コシキ 9-1-15
全長95.6cm 刃先幅27.2cm 937g
ブナ 羽子板の代用



コシキ 9-1-14
全長102cm 刃先幅24.5cm 910g
ブナ 羽子板の代用



■ハネツケエシを楽しむ人々



■市内伊達のつつじ原での花見

ホウビキ

宝引きとは何本かの縄の1本に一文銭などを付け、それをクジ引きのように引かせ、その1本を引当てた人が勝ちで、賭金などをとる遊びである。正月など若い衆たちが集まると多少の金を賭けて遊んだ。

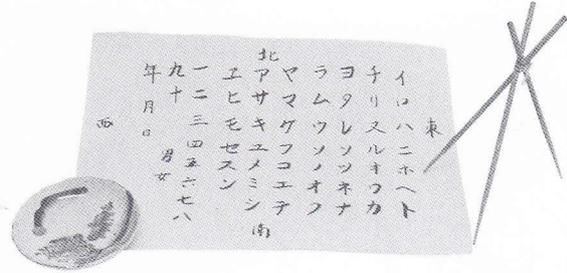
苧績み仲間の婆さんたちが、績み疲れると一文銭くらいを張って駄菓子^{お菓}を求めて楽しむこともあった。



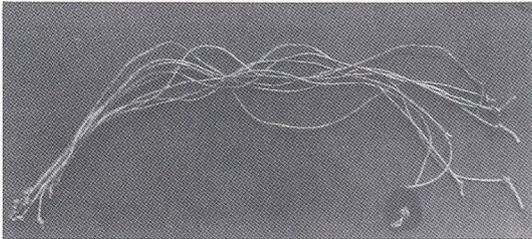
コックリサマ

占い遊びとして若者の間で流行した。当地の方式は、3本の箸などの棒を縛って図のように立て、3人がその1本ずつに指を掛けて持つ。周囲の者が何か質問すると箸が自然に動いて下に置いた紙の文字を1本の箸が指して答える。始める前に祈禱者^{まとうしや}のようにして稲荷様^{いなりさま}を招く。

この遊びは明治年代からといわれているが、当地には紡績女工などに行った娘たちが、持ち帰り伝えたい。雪の夜など、若い男女たちが集まった時の座興によく行った。あらかじめ承知している特定の2人の間柄を、コックリさんに聞いて興じたものであった。

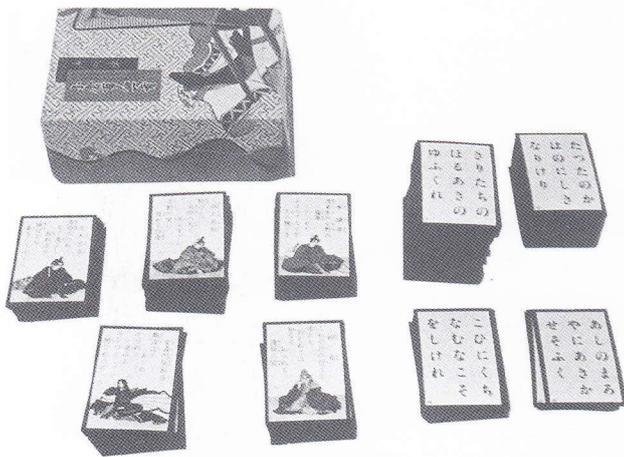


(屋内娯楽用具)

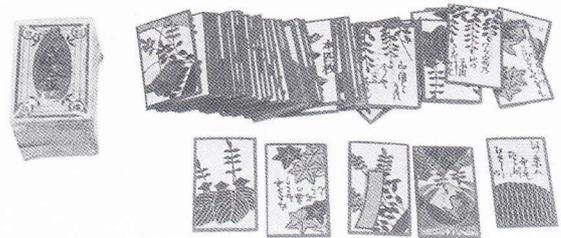


ホウビキ 9-イ-23
全長50cm
カラムシ・一文銭 宝引き

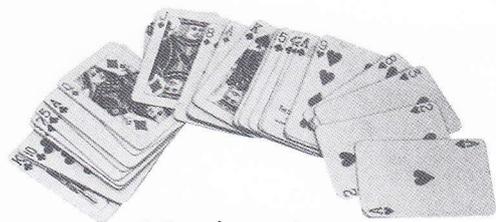
コックリサマ 9-イ-24
和紙39.4×27.7cm 皿口径11.8cm 箸長さ23.1cm
和紙・皿・箸 占い用



ヒャクニンイッシュ 9-イ-19
7.4×5.1cm(1枚)
厚紙 百人一首



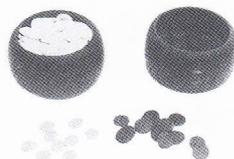
ハナフダ 9-イ-20
5.5×3.3cm(1枚)
厚紙 花札



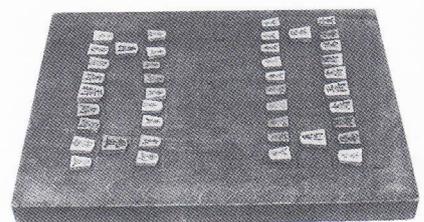
トランプ 9-イ-22
8.9×5.7(1枚)
洋紙



ゴバン 9-イ-35
46.4×43.8cm 高さ21.3cm
ケヤキ 碁盤



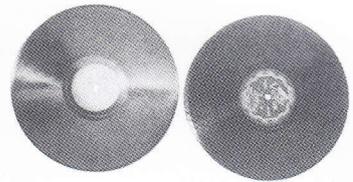
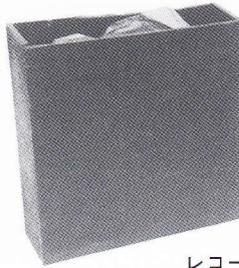
ゴイシ 9-イ-36
容器径12.5cm 高さ7.3cm 碁石径2.2cm
石・貝 碁石



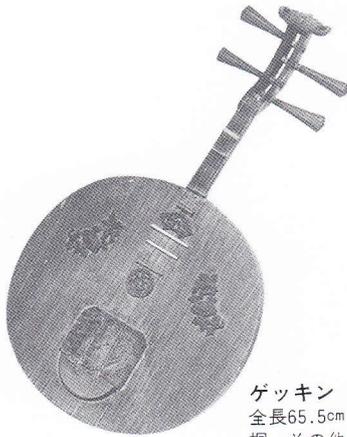
ショウギバン 9-イ-33
43.1×34.4cm 高さ3.3cm
朴 将棋盤



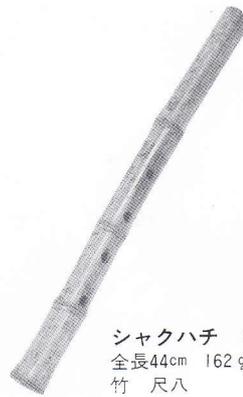
チクオンキ 9-イ-29
44.7×39.7cm 高さ39.5cm
木・金属・その他 蓄音器



レコード 9-イ-30
径25cm 180g
シェラック レコード盤



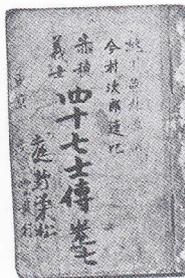
ゲツキン 9-イ-27
全長65.5cm 564g
桐・その他 月琴



シャクハチ 9-イ-26
全長44cm 162g
竹 尺八



エゾウシ 9-イ-37
18×12cm 厚さ1.2cm (左)
和紙 本



コウダンボン 9-イ-38
21.8×14.5cm (左)
和紙 本



コウダンボン 9-イ-39
18.7×13.4cm 厚さ2.5cm
和紙 本

口 遊戯用具

子供は、遊びが生活だったから何でも遊びにしてみようし、そこにあるものは何でも遊び道具にしてみよう。たとえば、履物や被物だって遊戯用具にするし、時には大人が大事にしているものを持ち出して使うこともあって、大人たちを困らせることがある。

彼等にとって雪は、生活の舞台であるとともに、遊戯用具などの好きな素材でもあるので、雪でさまざまなものを造って遊んだ。大人の雪仕事は日ごろからよく見ているから、雪遊びとなると、まずそれに目をつける。除雪用のコシキなどは必需品だし、春先になると、櫛など

は至極魅力的な遊具となった。

年長の子になれば大人用の用具をそのまま使えるし、やがてはそれらを実際に使いこなさなくてはならない。そこで大人が用意して与えたのがコドモコシキや、コドモゾリである。

また、春になって、雪の消え間から地面が顔をのぞかせるようになると、子供たちは、それに応じた遊びを展開し、それにふさわしい遊具を発見した。子供にとって、それが自然に準ずることであり、大人への準備にもなった。

〔屋外遊戯用具〕



コドモコシキ 9-ロー-1
全長54.5cm 刃先幅13.9cm 143g
ブナ 雪遊び用小型木鋤



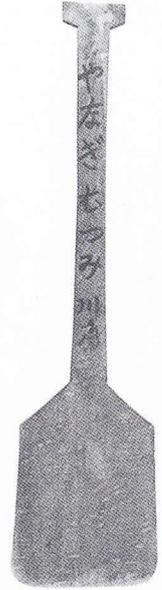
コドモコシキ 9-ロー-2
全長56.5cm 刃先幅13cm 165g
ブナ 雪遊び用小型木鋤



コドモコシキ 9-ロー-3
全長56.5cm 刃先幅12.4cm 135g
ブナ 雪遊び用小型木鋤



コドモコシキ 9-ロー-5
全長54.7cm 刃先幅13.3cm 185g
ブナ 雪遊び用小型木鋤



コドモコシキ 9-ロー-6
全長54cm 刃先幅14cm 150g
ブナ 雪遊び用小型木鋤



■雪ダルマをつくる子供たち



■チャンバラゴッコやコドモコシキで遊ぶ子供たち

雪のママゴト

雪晴れの日、幼い女の子たちは、雪を材料にして、ママゴト遊びに熱中した。用具といっても家で使い古した飯杓文字、欠けた茶碗や古いお椀、缶詰の空缶など、何でも使う。それに雪を盛ればご飯、色をつければ赤飯だ。それを型につめて抜けば饅頭でも落雁の菓子でも簡単にできる。汁物ならば屋根から落ちる雪解け水がある。

雪は、それ自体が作り遊びの素材だから、子供の創造力はそれを逃さなかった。雪団子・雪ダルマ・滑り台・ガフンドの落とし穴もそうだ。下の銀杏の実も、雪に作った穴に投げ入れる技を競う遊びに使った。



■雪を使ったママゴト遊び



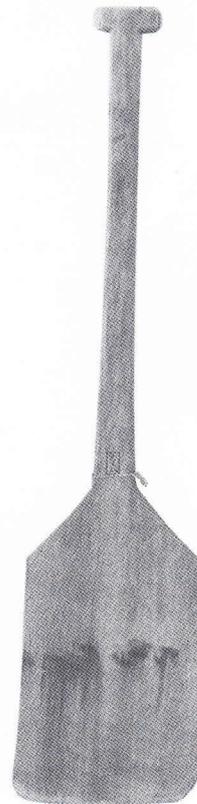
シャモジ 9-ロー-15
全長20.3cm 26g
ブナ 雪遊び用



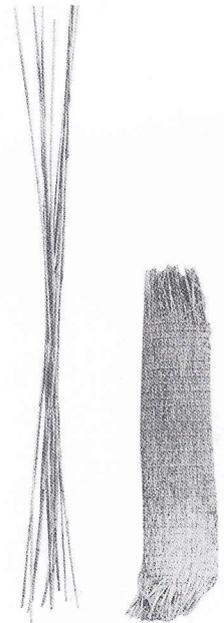
ママゴトドウグ 9-ロー-17
碗口径9.8cm 高さ6.5cm(左上)
碗・その他 雪遊び用



イチジョウブクロ 9-ロー-19
長さ22.7cm 幅18cm
木綿 銀杏遊び用



コシキ 9-ロー-22
全長104.5cm 刃先幅25cm 1,065g
ブナ 落とし穴用



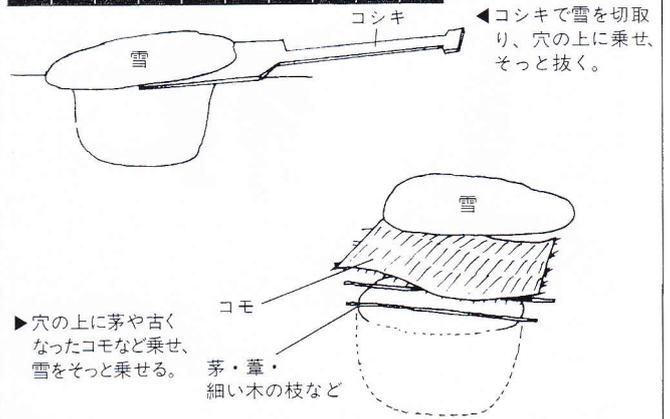
ガフンド 9-ロー-21
コモ80×115cm
葦長さ241cm
藁・葦 落とし穴用

落とし穴

雪が降り続いて外遊びに適さないような日、屋内遊びにも飽きると「落とし穴やろうか」ということになる。雪道に穴を掘り、通る人を陥落させて楽しもうという悪童らしい謀議だ。こんな日は通る人も少ないのでやり易い。

雪道の路面に穴を掘ると、コシキを蓋のように置き、その上に雪をかぶせて上手に踏み固め、それと分からなくしてコシキを抜き取る。そして物陰に隠れて人が通るのを待つ。後で大目玉を食らうが、一度はやってみたい遊びであった。穴の蓋部分に葦や菰を使う者もあったが、コシキで作るのが腕の見せどころだった。

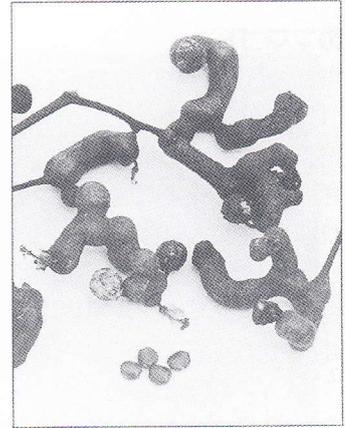
落とし穴の作り方の一例



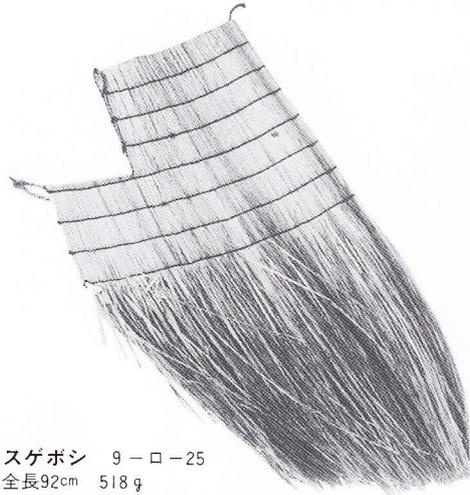
シミワタリ

3月も過ぎて、積もった雪の表面が暖気で水分を含むようになると、寒気の強い朝は雪原の表面が固く凍みて、その上をどこまでも渡って歩けるようになる。待兼ねた子供たちは、連立ってシミワタリに出かける。ほおかぶりをし、冷たい手を懐に入れて、それでも「しみたカホイ しみねカホイ」と歌いながら、はしゃいで、どこまでも歩く。近づく春を迎える遠出なのである。

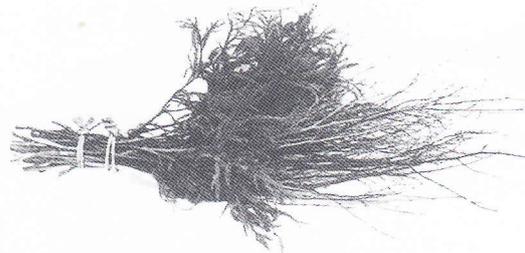
こんな時、味噌煮のときに煮た豆を買って、数珠玉のように糸にさして乾燥させたものを持参して食べるのも楽しみの一つであった。尻に杉の葉を敷いて雪の斜面を滑り降りたり、雪の消えた斜面に早く咲くショウジョウバカマやマンサクの花を見つけるのも、探検隊気取りの遊戯であった。やがて、日が高くなって凍った雪面がゆるみ、歩きにくくなって泣きべそをかくこともあった。



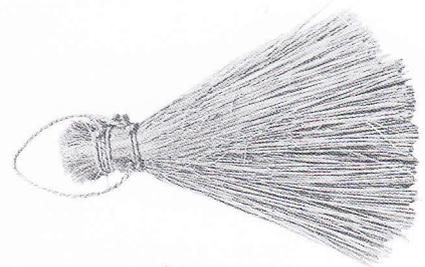
■ケンボナシ



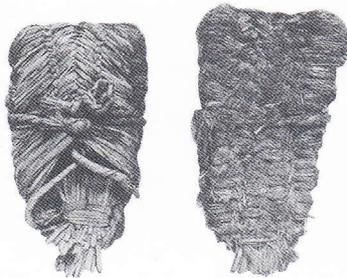
スゲボン 9-ロ-25
全長92cm 518g
スゲ(タヌキラン) 雪滑り用(転用)



ソダゾリ 9-ロ-26
全長135cm 1,165g
柴・杉 櫛遊び用



ワラゾリ 9-ロ-27
全長77cm 50g
藁 櫛遊び用



ワラグツ 9-ロ-24
長さ26.5cm 幅13.5cm 160g(片方)
藁 雪滑り用



コドモスッポン 9-ロ-23
高さ20cm 沓長さ21cm 145g(片方)
藁 雪滑り用(雪中用長沓)



■シミワタリをする子供たち



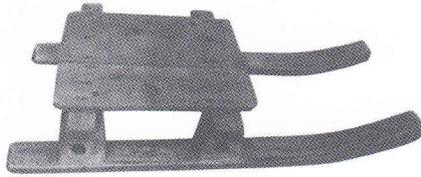
■ソダゾリで滑降



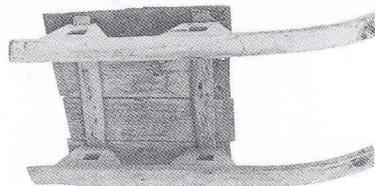
■ハコゾリで遊ぶ子供たち



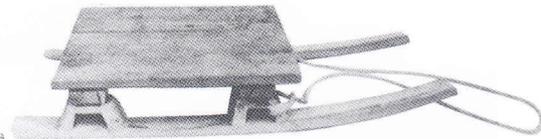
■コドモゾリ(左・右)・スキー(中央)で滑降



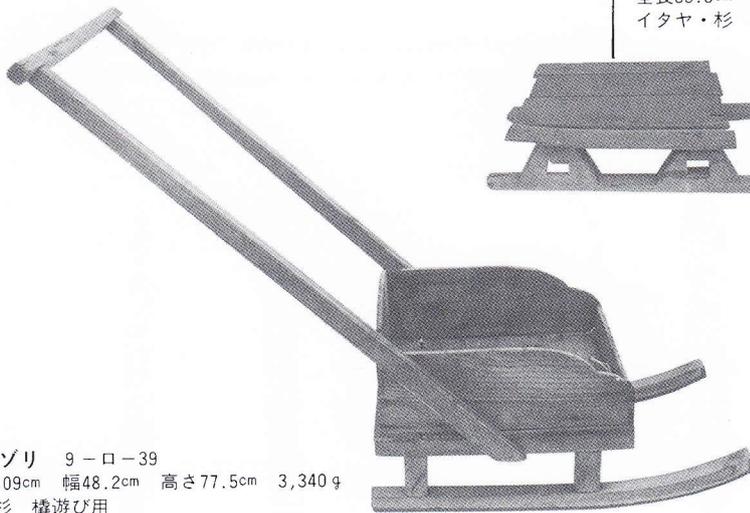
コドモゾリ 9-ロ-28
全長73.6cm 幅40.3cm 2,382g
イタヤ・杉 橇遊び用



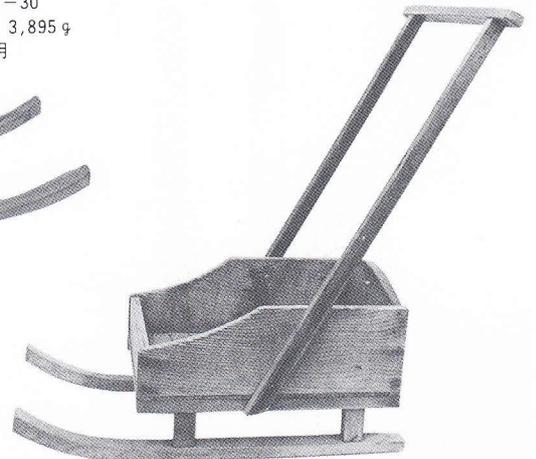
コドモゾリ 9-ロ-30
全長85.8cm 幅44cm 3,895g
イタヤ・杉 橇遊び用



コドモゾリ 9-ロ-29
全長86.5cm 幅38.5cm 4,300g
イタヤ・杉 橇遊び用



ハコゾリ 9-ロ-39
全長109cm 幅48.2cm 高さ77.5cm 3,340g
朴・杉 橇遊び用



ハコゾリ 9-ロ-41
全長75.3cm 幅46.5cm 高さ75cm 3,085g
イタヤ・杉 橇遊び用

ソリソリ

ソリソリ（橇乗り）は、子供の遊びだが、それはまるで、大人の橇引きや雪掘りといった仕事の呼び方のように言われた。子供は季節を追って、その時期の遊びに熱中するから、大人の仕事になぞらえたのである。

春木山の橇引きが始まるころになると、子供たちも橇乗りを始める。コドモゾリといっても、小型ながら大人の引く、いわゆる山橇と同じ造りである。ただ、この場合、上に板を打ちつけて固定したものになっている。乗って遊ぶのは専らこの型の橇で、写真下段に見える箱型で手押し式のもの、いわば乳母車の橇版で、幼児のお

もり用というべきものである。

橇乗りは、雪の坂道などで乗ることもあったが、ヤブ（雪原）が凍みたシミワタリの際に引いて行って乗り、帰りには杉葉などの焚き木を拾って積んで帰った。

また、杉葉を尻に敷いて滑ったり、藁であらかじめ作ったワラソリや、木の枝を束ねて作ったソダソリにも乗ったが、これはまた、橇とは違った野趣があった。これとは別に、雪を積み上げて作る滑り台があったが、これは1・2月ころに乗った。藁沓で滑るが、幼い子はスゲボシに座って滑り降りた。

スキーノリ

写真上段のタツナは、竹製のスキーである。鼻につけた手綱たつなから出た呼び名だが、これには足を固定する仕組みがないので、手綱でそれを補っていたのだと思う。

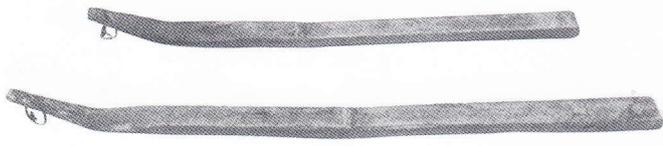
スキーが当地で子供の遊びとして普及し始めたのは、大正の終りから昭和の初年ころであった。当時はまだスキーは簡単に入手できなかったから、欲しがる子供には、親が手作りしたものを与えた。買って貰えたにしても足を留める金具があるくらいで、革のバンドなどは無く、布切れや麻縄などを使って足に括りつけた。スキー靴などはもちろん無く、藁製のスッポンであったし、その後

になってもゴム長靴なら上等であった。

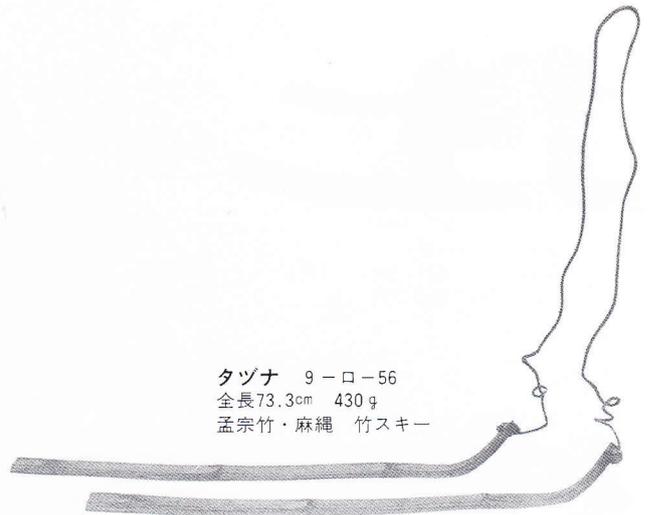
次頁にレルヒ少佐が伝えた一本杖があるが、子供たちははじめ、杖をいかなかった。その後、二本杖が普及してくると、子供たちは唐傘の柄を使ったり、竹棒の先に束ねた藁や針金の輪を作って付けて、杖とした。

よく滑るように、ロウソクやパラピンを、焼いた火箸で溶かしてスキーに塗ったが、時には裁縫用のヒノシ・コテ・アイロンなど使っては叱られたものであった。

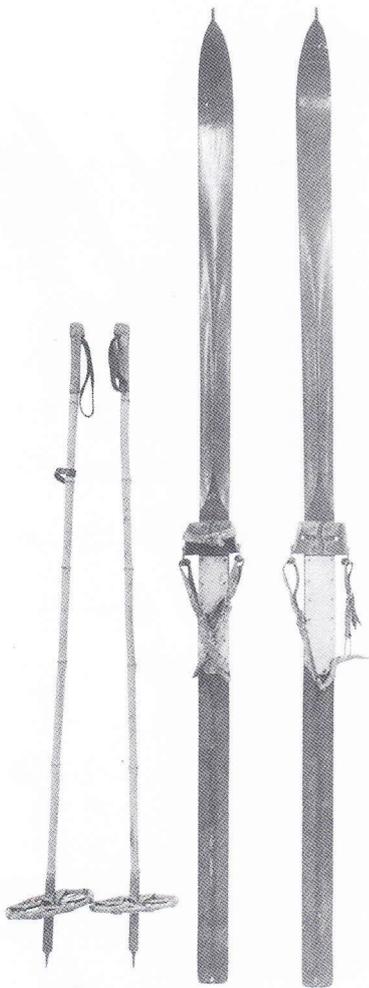
そんなスキー乗りだったが、子供たちは、夕方暗くなり、着物の裾が凍ってしまうのも忘れて滑っていた。



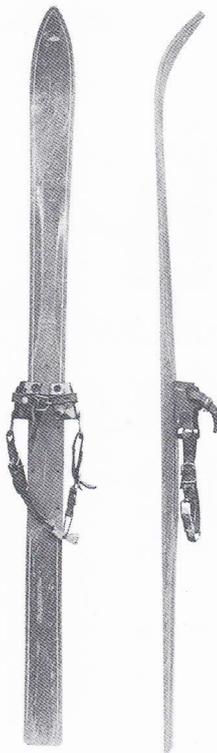
タツナ 9-ロ-59
全長59cm 285g
孟宗竹 竹スキー



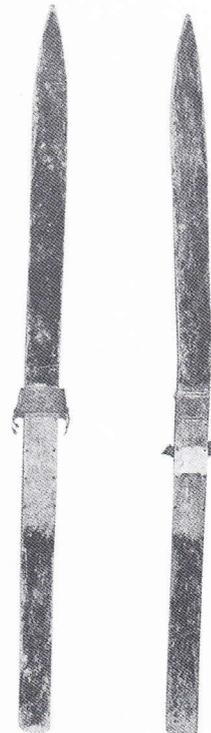
タツナ 9-ロ-56
全長73.3cm 430g
孟宗竹・麻縄 竹スキー



スキー 9-ロ-70
スキー全長189.4cm 3,170g
杖全長127.5cm 630g
木・金具 大人用スキー



スキー 9-ロ-67
全長104.5cm 1,250g
木・金具 子供用スキー



スキー 9-ロ-63
全長119cm 1,125g
木・金具 子供用スキー



■着物姿でのスキー授業(大正11年ころ)



■スゲボシ・ワラグツでのスキー(昭和初期ころ)



ツエ 9-ロー-74
全長216cm 857g
竹・鉄 スキー杖(一本杖)



ヒノシ 9-ロー-78
全長33.4cm 800g
青銅 スキーの蠟塗り用具(転用)



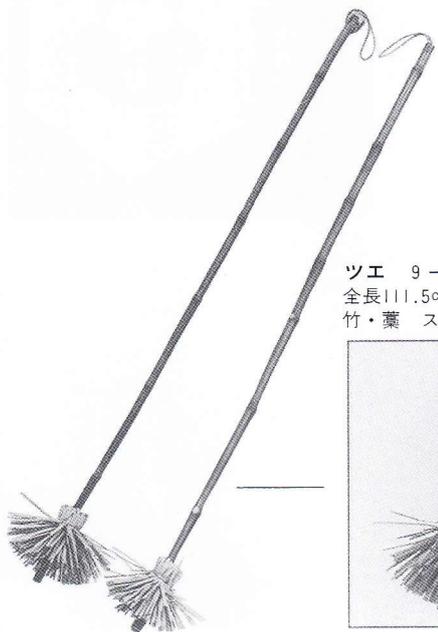
コテ 9-ロー-79
全長35cm 330g
鉄・木 スキーの蠟塗り用具(転用)



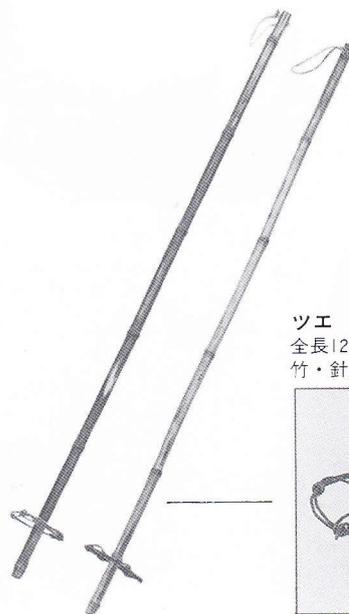
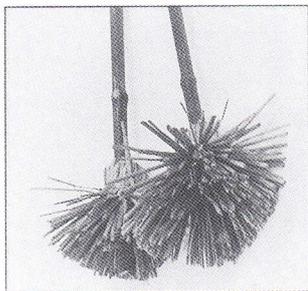
ロウヌリ 9-ロー-84
全長24.1cm 79g
ブリキ・針金 スキーの蠟塗り用具



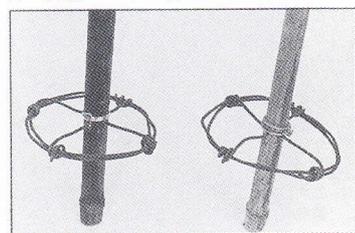
アイロン 9-ロー-80
長さ19.9cm 高さ16.4cm 885g
鉄 スキーの蠟塗り用具(転用)



ツエ 9-ロー-75
全長111.5cm 315g
竹・藁 スキー杖



ツエ 9-ロー-76
全長120cm 450g
竹・針金 スキー杖



スケツト遊びなど

スケツトは、スケートに似せた地方名で、おそらく子供たちの命名である。ことによると氷上のスケートが一般に知られる前から、雪の上を滑るものとして、すでに当地の子供は遊んでいたのかも知れない。

当地にあったスケツトは、写真のように細い山竹を並べ合せて作ったもの、木の台の下に竹を張ったもの、孟宗竹を割って下駄状にしたものなどがあり、主としてシミワタリの時や、固く凍った路面で滑って遊んだ。

上段のゲタスケートは、本格的なスケートに似せて作ったものだが、普通の雪上での使用は無理である。これ

は、市街地の雁木通りの固い路面の上に雪が吹き込み、それが氷のように固く凍った所で用いた。歩行者は迷惑したはずだが、子供ならではの発想だ。

固くなった雪原を春風が渡るころになると凧揚げがはじまる。街で売られてもいたが、多くの子供は自分で作って揚げた。六角凧が普通で、内山紙を使い、竹ヒゴを骨にして作った。糸のつけ方にも技術がいり、何回も工夫してやっと出来上がる。バランスをとるために、2本の長い紙の足をつけた。凧を揚げるのは広場がいいが、家の混んでいる所では屋根へ上って揚げた。



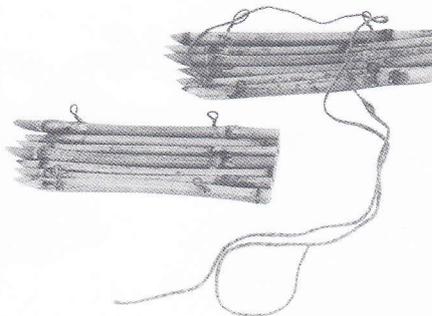
タケスキー 9-ロ-87
全長159cm 1,792g
孟宗竹 自製スキー



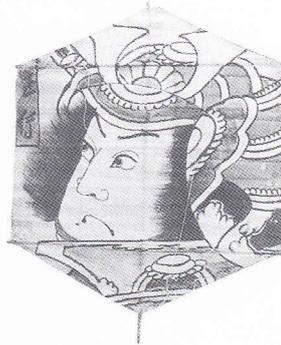
ゲタスケート 9-ロ-88
全長27.9cm 幅9.8cm 585g
桐・牛革・鉄 雪上スケート



ハゴイタ 9-ロ-97
全長33cm 100g
桐・羽根・ムクロジ 羽子板



スケツト 9-ロ-93
全長24.8cm 177g
山竹・針金 雪上スケート



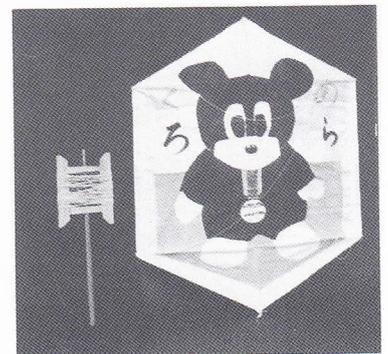
タコ 9-ロ-98
全長72.5cm 幅60.4cm 50g
竹・和紙 凧



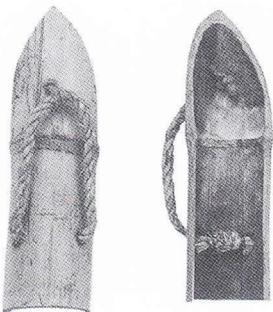
イトマキ 9-ロ-100
全長25.6cm 148g
杉・その他 凧揚げ用糸巻



スケツト 9-ロ-95
全長23cm 幅9.7cm 958g
杉・孟宗竹 雪上スケート



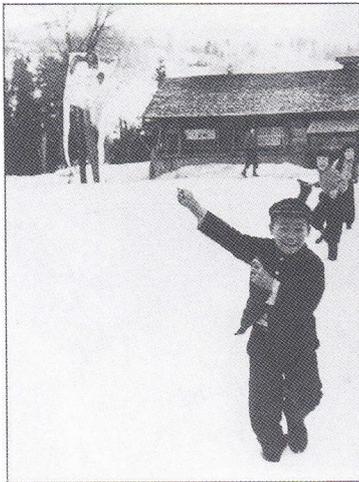
タコ 9-ロ-99
全長72cm 幅58.5cm 65g
竹・和紙 凧



スケツト 9-ロ-90
全長27cm 幅8.1cm 264g
孟宗竹・藁緒 雪上スケート



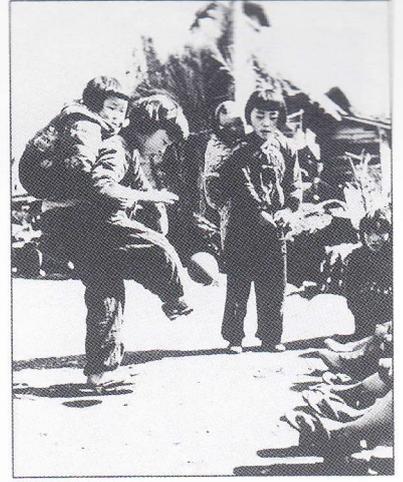
スケツト 9-ロ-92
全長17.6cm 幅5.6cm 155g
孟宗竹・布緒 雪上スケート



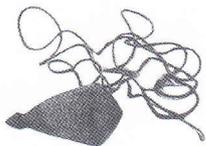
■雪上で風揚げ



■オハジキで遊ぶ子供たち



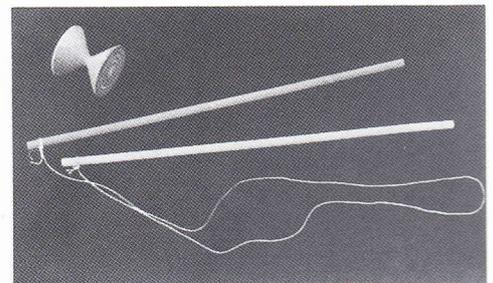
■マリつきをする子供たち



ナゲズングリ 9-ロー-102
コマ全長10.2cm 60g
木・麻縄 手製独楽



ズングリ 9-ロー-103
コマ全長9.5cm 62g
竹棒全長44.5cm 43g
松・竹・布 手製独楽



デバモノ 9-ロー-110
コマ径6.5cm 高さ6.3cm 65g
棒全長46cm 40g
朴 綱遊び用(デーオーボール)



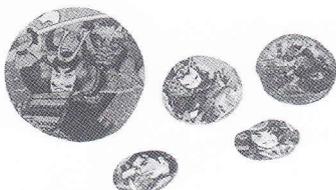
コマ 9-ロー-108
コマ径7.9cm 高さ5.6cm 150g
縄全長291cm 太さ0.3cm 10g
木・鉄芯・苧縄 鉄心独楽



クギタテ 9-ロー-113
全長9cm
鉄 釘立て用



ビーダマ 9-ロー-114
ビー玉径1.7cm
袋11.5×13.2cm
ガラス玉 ビー玉遊び用



パッチ 9-ロー-111
最大径16cm 厚さ0.1cm
最小径7.3cm 厚さ0.1cm
厚紙 面子



パッチ 9-ロー-112
丸型最大径11.3cm 厚さ0.1~0.2cm
角型最大8×4.8cm 厚さ0.05~0.4cm
厚紙 面子



インケリ 9-ロー-115
5.2×4.5cm 高さ1.5cm 53g(左)
自然石 石けり遊び用

土の出はじめころ

4月の声を聞くと、雪もどんどん消えはじめる。とは言っても、厚い雪原が一斉にとはいかないが、川辺や傾斜面の急な土手、殊に消雪用に引き水をした所などから地面が現れてくる。雪国の人々にとって、久々に見る土の感触は、それ自体が待兼ねた春の息吹なのだ。

子供たちは、いち早くそのわずかな地面を使って春の遊びを展開する。まずコマ回しだ。市販されていたコマは鉄芯で縁にも鉄を巻いた、いわゆるカネマキでよく回るが、それとは別に子供たちが自分で作って回すズングリがあった。これは、それに適した木を捜し、鉈を使っ

て削って自製するのだから、その出来具合が腕の見せどころである。同じ男の子の遊びで、その時期に始まるのがパッチ(面子)である。これは賭けごとのな遊戯なので特別に熱が入る。女の子たちは、テンマリつき、縄跳びに興じた。釘立ても地面あつての遊びだ。

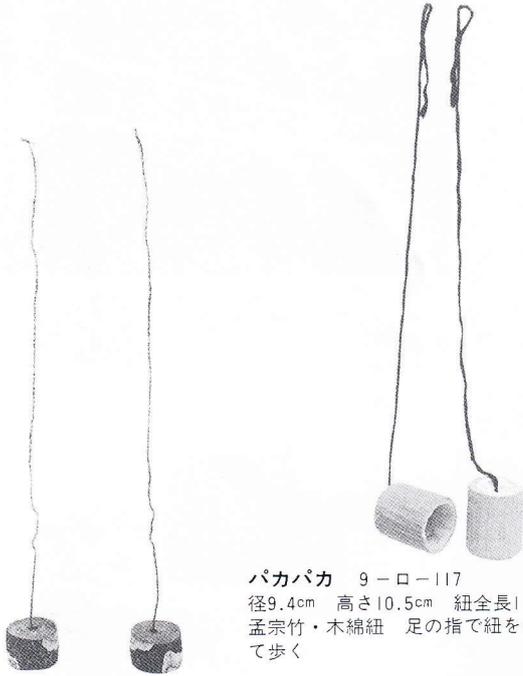
やがて、雪の消えた地面が広がると、それにつれて遊びの幅も広がる。小さい子は缶ガラ下駄のパカパカ、大きい子は竹馬に乗ったが、「学校まで行って来た」というのも自慢になる。女の子たちは、小川のほとりでフキノトウやセリを摘んで食膳を楽しくしてくれた。



■若草を摘む少女

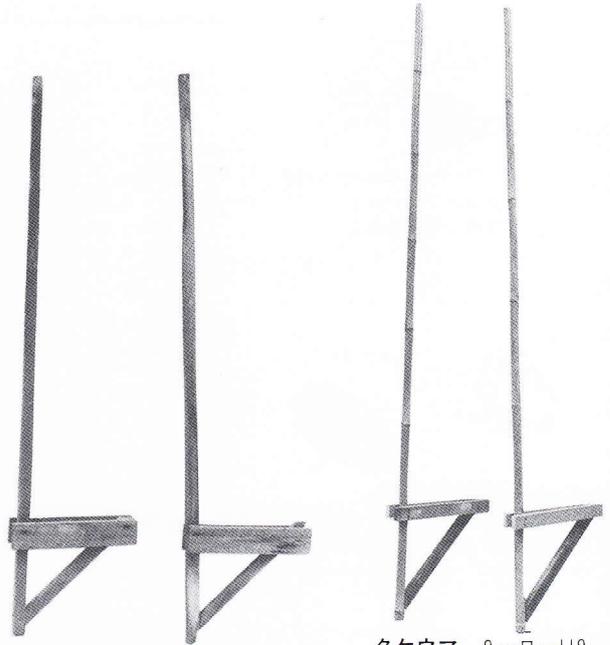


■花見をする子供たち



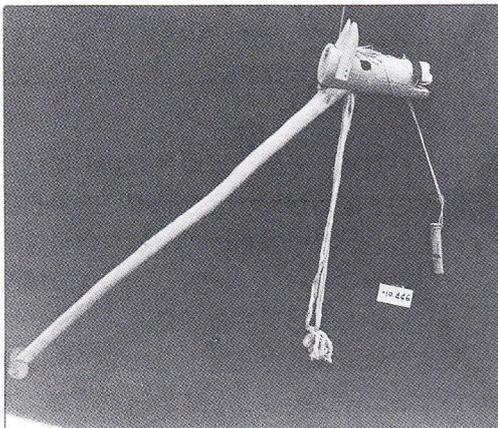
パカパカ 9-ロ-117
 径9.4cm 高さ10.5cm 紐全長117cm 212g(片方)
 孟宗竹・木綿紐 足の指で紐をはさみ爪先で履いて歩く

パカパカ 9-ロ-116
 径8.5cm 高さ5.3cm 紐全長85cm 111g(1個)
 桐・藁縄 足の指で縄をはさみ爪先で履いて歩く

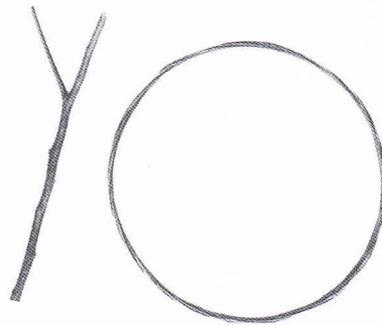


タカウマ 9-ロ-118
 全長145cm 915g(片方)
 杉 竹馬

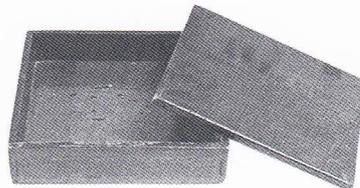
タケウマ 9-ロ-119
 全長173.2cm 675g(片方)
 竹・杉 竹馬



モクバ 9-ロ-120
 全長90.4cm 550g
 シナノキ・その他 馬乗り遊び用



タガマワシ 9-ロ-121
 タガ径44.5cm 30g
 棒全長48.2cm 50g
 古タガ・又木 輪まわし用



ジュウバコ 9-ロ-126
 17.6×15.8cm 高さ4.5cm 365g
 木製漆塗 野遊び・花見用



ポテ 9-ロ-125
 口径26.5cm 高さ11.5cm 128g
 山竹 草摘み用

ポボワイサ

ポボというのは赤ん坊のことで、それに見立てた簡単な人形をいう。ワイサ(=悪さ)はいたずらの意味で、要するに遊びのことだから、ポボワイサは人形遊びをあらわす幼児語である。近くの津南町などではポボコンジヨと言ったが、人形ごっこ^{わらわ}のことで同意語である。

ポボワイサで遊ぶのは、主として幼い女の子たちであった。ツッコト(継ぎこと=衣類のつくろい)をする母たちから布の小切れを貰い、綿をくるんでテルテル坊主のような頭を作り、それに布切れを着せて遊ぶ。

母や祖母が作って与えるサルポボは這子^{はうこ}の一種で、御

守りのような意味もあったが、これも、おんぶやだっこをして遊ぶ幼女たちのよい遊び相手であった。

女の子が大きくなると、日本髪風の髪型の人形を作り、千代紙の着物を着せて、着せ換え人形にした。この時の髪型は和紙を箸などに巻いて縮め、髪型の毛筋をあらわすようにしたが、これに似たものとして、昔はトウモロコシの皮を保存しておいて使った。

雪に降込められて戸外に出られない日は、姉妹や隣家の女の子らも寄って、ポボワイサにふけた。こんな日は、母や祖母も針仕事で家に居るので安心であった。

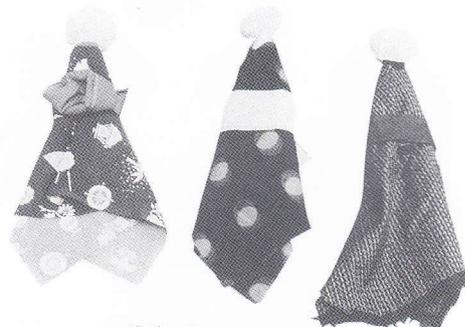
〔屋内遊戯用具〕



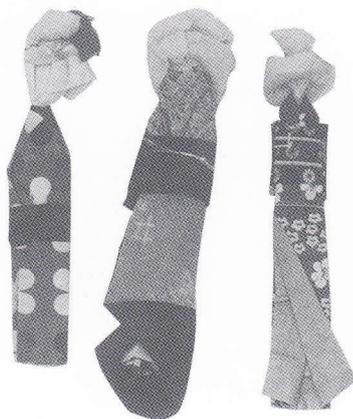
ハギレ 9-ロ-133
長さ20~50cm
木綿・その他 人形遊び用(人形つくり用)



ポボ 9-ロ-128
全長11.5cm 6g(左)
木綿・その他 人形遊び用



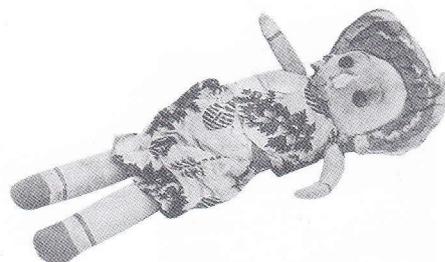
ポボ 9-ロ-129
全長25cm 25g(左)
絹・木綿 人形遊び用



アネサニンギョウ 9-ロ-134
全長21.3cm 10g(左)
和紙・絹 人形遊び用



アネサニンギョウ 9-ロ-135
全長19.3cm 6g
和紙・トウモロコシの皮 人形遊び用



ニンギョウ 9-ロ-141
全長45.5cm 200g
布・その他 人形遊び用



サルポボ 9-ロ-130
全長34.5cm 100g
木綿・綿 人形遊び用



ニンギョウ 9-ロ-140
全長7cm 8g
土・絹 人形遊び用



ハイハイニンギョウ 9-ロ-138
全長26cm 205g(左)
土・その他 人形遊び用

オトッコ・オンナッコ

積雪期の子供たちの遊戯は、その場所から見れば、屋外と屋内の遊びに分れるし、遊戯の性質からすれば、専ら男の子が行うものと、女の子に限られるもの、それともう一つは、男女共通または混合する遊びがある。

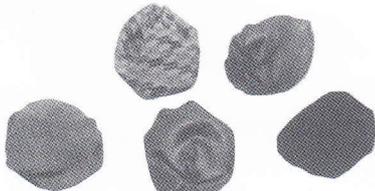
屋外での遊びは当然、雪に関係するし、屋内の遊びは悪天候にはばまれてのことが多いが、どちらの遊戯にしても悪さ遊び的でありながら、その内容は大人の仕事をなぞらえた、またはそれにつながると見られるものを含んでいる。その点では、屋内の遊びが女の子に多いことから察せられるし、男の子の雪遊びはもちろん、藁細

工遊びなども、その好例である。

男の子・女の子共通の遊戯は、正月に展開される遊びに象徴的にあらわれるが、これには娯楽といえる性格のものも多く、この楽しさが次の遊びを誘発する。

女の子たちが仲間で熱中した遊びは、ナンゴ(お手玉)やマリつきであった。ナンゴは布切れを分けてもらい、作り方も教わって作った。手まりもゴムマリの出回るまでは、ゼンマイワタを集め、自分で糸を巻いて作った。

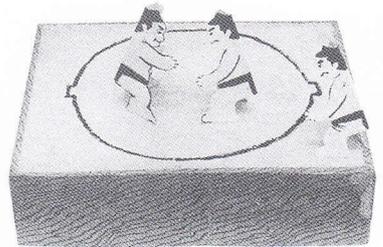
男の子たちの場合は、むしろ工作することに興味注がれていた。知恵の輪や紙角力などもその例である。



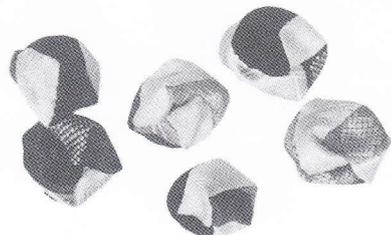
ナンゴ 9-ロ-142
6×5.5cm 40g(1個)
布・小豆 お手玉遊び用



テンマリ 9-ロ-151
径9.2cm 84g
木綿糸・刺繍糸・ゼンマイ綿 手鞠



カミズモウ 9-ロ-163
人形高さ7.9cm 箱23.8×19.8cm 高さ6.2cm
厚紙 紙角力



ナンゴ 9-ロ-143
7.5×6cm 50g(1個)
布・小豆 お手玉遊び用



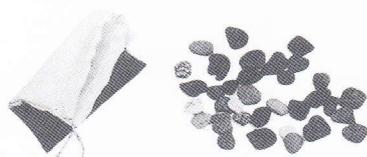
テンマリ 9-ロ-149
径11.8cm 115g
木綿糸・刺繍糸・ゼンマイ綿 手鞠



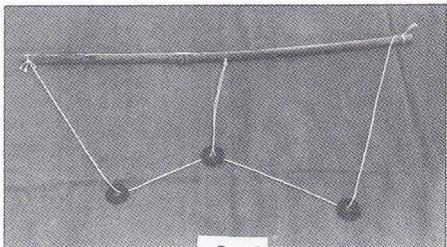
テンマリ 9-ロ-150
径7.5cm 47g
木綿糸・刺繍糸・ゼンマイ綿 手鞠



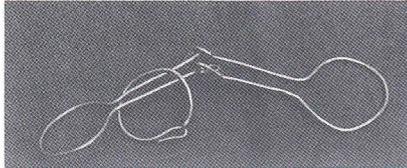
タケナンゴ 9-ロ-148
長さ24.5cm 幅1.2cm 0.8g(1本) 150g(16本)
孟宗竹 竹ナンゴ遊び用



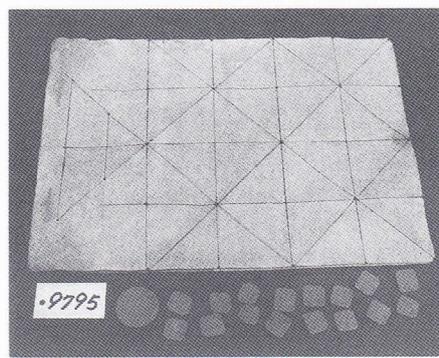
オハジキ 9-ロ-154
大きさ1~2cm 厚さ0.3~0.8cm
小石 オハジキ遊び用



カラクリ 9-ロ-165
棒長さ45.1cm
竹・紐・一文銭 知恵の輪



チエノワ 9-ロ-164
全長22.9cm 35g
針金 知恵の輪



ジュウロクムサン 9-ロ-162
38.5×27.6cm 親札径4cm 子札2.1×0.3cm
和紙・厚紙 十六六指



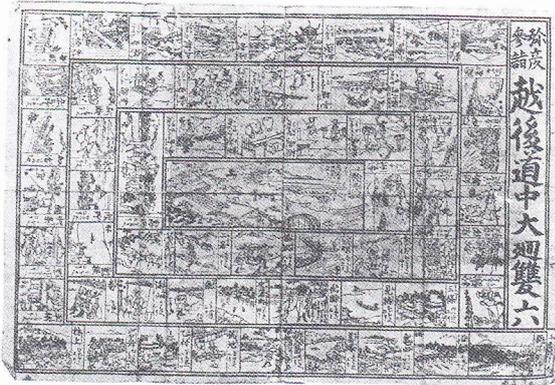
カルタ 9-ロ-160
7.5×5.3cm(1枚)
厚紙 いろはカルタ



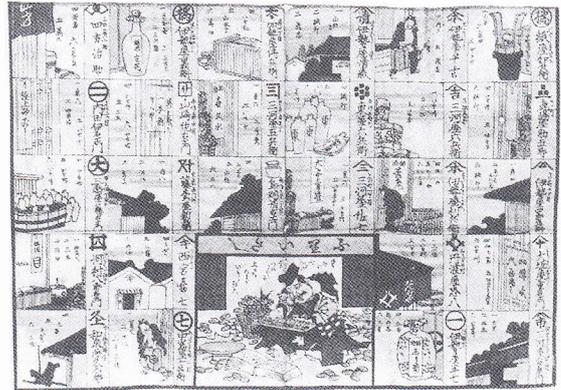
■雪原での遊び



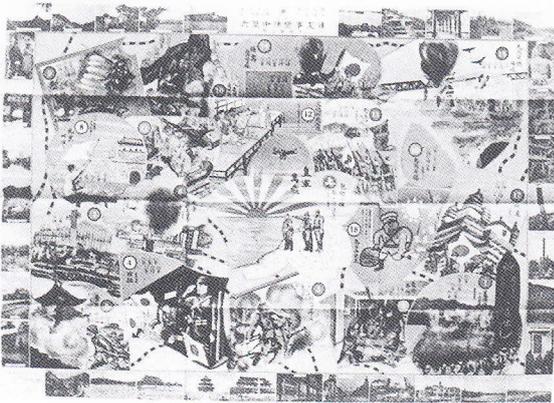
■鳥追い堂(ホンヤラドウ)の中で黄な粉餅を食べる子供たち



スゴロク 9-ロ-156
60.5×41.1cm
和紙 双六遊び用



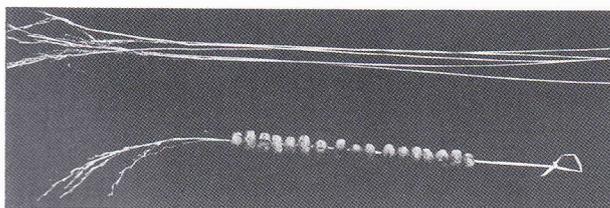
スゴロク 9-ロ-157
47.1×35.6cm
和紙 双六遊び用



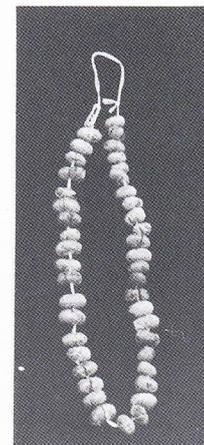
スゴロク 9-ロ-158
109×78.5cm
紙 双六遊び用



サイコロ 9-ロ-159
1.4×1.4cm 1g(1個)
木製 双六遊び用



ヌイゴ 9-ロ-166
全長30cm
葉の穂茎 味噌煮豆さし用(シミワタリの際のおやつ)

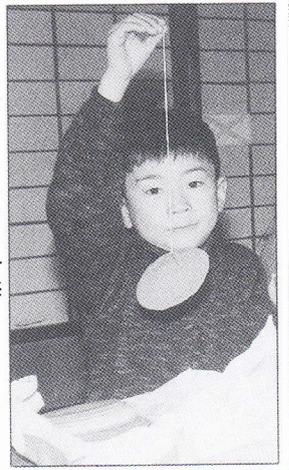


イト 9-ロ-168
全長62cm
カラムシ糸 味噌煮豆さし用
(シミワタリの際のおやつ)

センバイヤキとセンベイツリ

正月の遊びで、必ず一度はするのがセンバイヤキだった。下の写真のように先端が円盤になっていて、一方に丸いくぼみがある煎餅焼を火にかけて熱し、油をひいて細かく切った餅を挟んで、もう一度火の上で焼く。すると、丸い煎餅がこんがりと出来上がるわけだが、餅が外にふき出したり、柔らか過ぎたりで、なかなかうまくいかない。それでも結構楽しく熱中した。相当の量を焼き上げると、今度はセンベイツリだ。木綿糸を縫い針に通し、それを重ねた煎餅に打ちつけて突きたて、糸の先を持って上手に引き上げて自分の手元まで運べば、はじめて食べられるという競技的な遊びであった。自分たちで作って食べるということは、ふだん禁じられていただけに魅力的な遊びだった。味噌煮どきの^{きしまめ}刺豆も同様に、その時々遊びは、一つの季節の目盛でもあったのである。

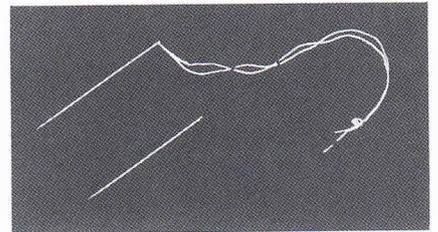
▶センベイツリをする子供



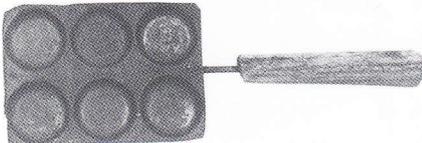
センバイヤキ 9-ロ-169
全長46.5cm 635g
鉄 餅煎餅用



センバイヤキ 9-ロ-171
全長46.5cm 690g
鉄 餅煎餅用



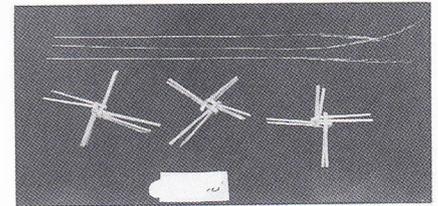
センベイツリ 9-ロ-172
針長さ5.5cm 糸長さ12cm
鉄針・木綿糸 餅煎遊び用針



イマガワヤキ 9-ロ-174
全長41.5cm 190g
銅・木(柄) 今川焼用



ダイロ 9-ロ-180
高さ5.4cm 幅12.5cm
藁 藁細工遊び



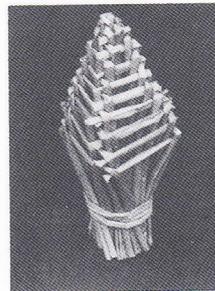
カザグルマ 9-ロ-184
羽根10×11cm マイゴ全長40cm
藁 藁細工遊び



ワラニングョウ 9-ロ-179
高さ21.2cm(左)
藁・銀杏 藁細工遊び



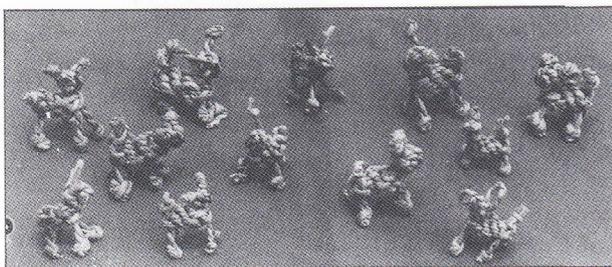
ヘッピー 9-ロ-182
高さ11cm
藁 藁細工遊び



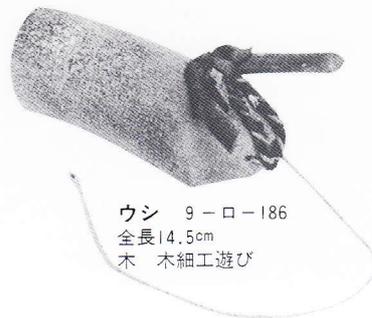
カネツキドウ 9-ロ-185
高さ13cm
藁 藁細工遊び



ニワトリ 9-ロ-187
高さ13.5cm
木 木細工遊び



ワラウマ 9-ロ-183
高さ3.8cm(大1個)
藁 藁細工遊び



ウシ 9-ロ-186
全長14.5cm
木 木細工遊び

雪の中の遊び

<p>●ズイノウ／雪の斜面を利用したり、雪を積んで作った滑り台で滑る遊び。ワラグツやスッポン、底の減ったタングツやナガグツを履き、立ったまま上から滑り降りる。スナベリともいう。</p>	<p>●ミチボンボン／雪原を踏み固めて渦巻状の道をつけ、道の両端に二手に分れて合図と共に一人ずつ走り出し、出会ったところでジャンケンをする。勝った子供は相手の陣に向かってさらに進み、負けた側は次の子供が走り出す。こうして相手の陣に到達した方を勝ちとする陣取りの一種。</p>
<p>●ギロンボ／小さく雪を盛った上を踏み固めて滑るようにして遊ぶ。</p>	<p>●踏み文字／雪原を踏み固め、字や絵を描く遊び。</p>
<p>●ケツズイナ／杉の枝や藁束を尻に敷き、固く凍みた雪の斜面を滑り降りる。ケツノリともいう。</p>	<p>●ユキダルマ／雪を積み上げたり削ったり、あるいは雪玉を転がして大きくし二つ重ねるなどして作った。ケシゴや木炭をダルマの目鼻に、ツララを手にと工夫を凝らした。近年はダルマに限らず、様々な題材を取上げて形作ることが楽しまれている。</p>
<p>●ソリノリ／小型の子供用ソリで斜面を滑り降りる。これに箱を取付けたものがハコソリ。</p>	<p>●ユキウサギ／雪を椀などに入れてお盆の上に伏せて乗せ、南天の赤い実を目に、葉を耳として付けてウサギに見立てた。</p>
<p>●タツナ／竹で作ったスキー。先端に取付けた紐を手を持って滑る。ミチズキ（中条）ともいう。</p>	<p>●ママゴト／欠けた茶碗や空缶・匙・飯杓子などを用いて、雪をご飯に雪水を味噌汁に見立てたり、雪の団子を作るなどして遊んだ。また家を模して雪の間仕切やチャブ台を作った。</p>
<p>●タケスキー／細い竹を数本組合せたり、同じ竹を長くスキー状にしたもの。</p>	<p>●ヨシナレ／傾斜のついた雪面を踏んで逆三角形の穴を作り、適当に離れた地点から十個ほどのイッチョ（銀杏）を「ヨシナレ カイコメシヨ」といいながら、穴をめがけて投げ入れる。穴に入ったイッチョは自分の物になり、はずれたものは次の子供が投げ入れていき、順に無くなるまで行く。アナイッチョともいう。</p>
<p>●スケツト／孟宗竹を割ったものに鼻緒を付けて履き、固い雪の上を滑る。</p>	<p>●シミワタリ／ヤブが凍みた朝（雪原が寒気により固く凍ること）、子供たちは無雪期には行けなかった所にもどんどん歩いて行けた。このとき「シミタカホイ シミネカホイ シミタシミタ ホーイホイ」と歌った。</p>
<p>●ゲロツケ／雪道の表面をクツでよく磨いてツルツルにし（ゲロをつける・ギゴらせる）、その上に新雪をふんわりと乗せ、通行人を滑らせる悪戯。</p>	<p>●ショーショーバリ／雪消えころの晴天の日、トタン屋根に雪玉を乗せて融け出した水を茶碗の中に溜める。その際に誰が一番早く、勢いよく水を落とすか競い合った。「ショーショー」とは小水の出る音、「バリ」とは小水の意味。</p>
<p>●ガフンド／雪の落とし穴。落とし穴に気づかれないような様々な工夫を凝らした。ガフンド（中条・水沢）・ドブ・ドフ（十日町）・ポッチョ（鉢）・チョッポコ（当間）などの呼び方がある。</p>	<p>●カナッコリトリ／氷柱（ツララ）のことをカナッコリ・カネッコリなどと呼ぶが、誰が一番大きいカナッコリをとるか競い合った。また、宝さがしと称し、これを雪中に埋めてさがしたり、雪の城に立てて飾りとした。子供たちはよくカナッコリを食べたが、これを食べると「腹に虫がたかる」などと親に諷められた。</p>
<p>●ガッチ／雪玉をぶつけあい固さ比べをする。雪玉を固く握って丸めた上、クツの底でエンゴロエンゴロして（転がす意）固くするが、その際に「ガチガチ マメンナレ」といって歌うこともあった。固さを増すため雪玉を水に浸し一晩おいて凍らせたり、塩を混ぜたり、あるいは石を入れたり工夫を凝らしたが、これらは反則。ガッチ・ガチ（中条・下条・当間）・カッチン（鉢）などの呼び方があるほか、雪玉自体のことをツブンコ（十日町）・イキダンゴ（中条）などともいった。</p>	
<p>●雪合戦／雪玉を投げつけ合う遊び。二手に分かれて雪の城壁を作り、木の枝などを旗とし、それを奪い合う陣取りも行われた。</p>	
<p>●マヨイミチ／雪原を踏み固めて迷路のような道をつけ、その中で追いかっこをする。</p>	

● 娯楽・遊戯用具品目一覧 〈計226点〉

イ、娯楽用具 ●ナガシゴト（仕事納めの共同飲食）用具：クワガラ・ジョウバイシ・オブケ・ジュズ・オビ ●屋外娯楽用具：ハネ・コシキ・ハナテシヨ ●屋内娯楽用具：ヒヤクニンイッシュ・ハナフダ・トランプ・ホウビキ・コックリサマ・シヤクハチ・ゲッキン・タイショウコト・チクオンキ・レコード・ショウギバン・コマ・ゴバン・ゴイシ・エゾウシ・コウダンボン

ロ、遊戯用具 ●屋外遊戯用具：コドモコシキ・シャモジ・ママゴト・ドウグ・イッチョウブクロ・ガフンド・コシキ・コドモスッポン・ワラグツ・スゲボシ・ソダヅリ・ワラヅリ・コドモヅリ・ハコヅリ・テオシヅリ・ソリ・キカイヅリ・タヅナ・スキー・ツエ・ヒノシ・コテ・アイロン・ロウスリ・ロウ・タケスキー・ゲタスケート・スケット・ハゴイタ・タコ・イトマキ・タコイト・ナゲズングリ・ズングリ・コマ・デバモノ・パッチ・クギタテ・ビーダマ・イシケリ・パカパカ・タカウマ・タケウマ・モクバ・タガマワシ・ナワトビ・ボテ・ジュウバコ・マルジュウ ●屋内遊戯用具：ボボ・サルボボ・ハギレ・アネサニンギョウ・チヨガミンギョウ・キセカエニンギョウ・ハイハイニンギョウ・ニンギョウ・ナンゴ・ナンゴブクロ・タケナンゴ・テンマリ・アヤトリ・ノコリイト・オハジキ・スゴロク・サイコロ・カルタ・フクワライ・ジュウロクムサシ・カミズモウ・チエノワ・カラクリ・スイゴ・ハリ・イト・センベイヤキ・センベイツリ・イマガワヤキ・ドンブリ・カタクチ・アブラボ・サラ・ワラニンギョウ・ダイロ・ヘッピ・ワラウマ・カザグルマ・カネツキドウ・ウシ・ニワトリ